

校長室より

第154号

「天空高き」



令和4年2月1日

オミクロン株—2022 年を迎えて—

一般的に、新規陽性者数が急激に増える感染のヤマを「波」と表現しています。

右のグラフからわかるように、2020年1月16日に国内で初の感染者の確認がされてから、現在まで大きな波が5回ありました。

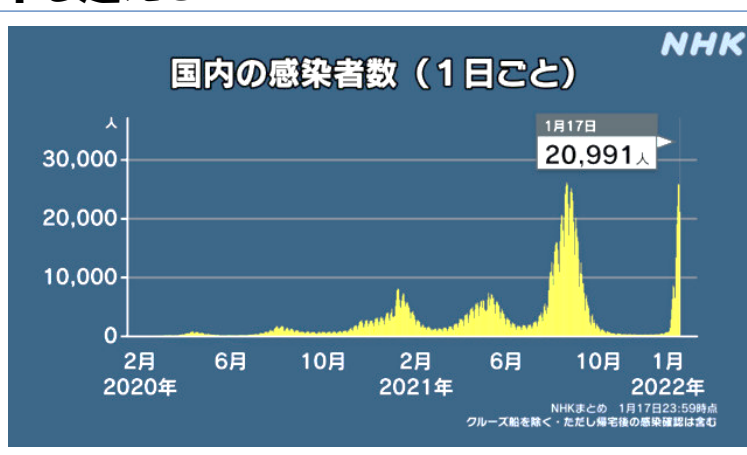
「第1波」は、(2020年3月～5月頃)、「第2波」は、2020年7月～8月頃、「第3波」は、2020年11月～2021年3月頃、「第4波」は、2021年3月～4月頃、「第5波」は、2021年7月～9月頃です。

そして、2022年の年明け早々、これまでにないレベルで急激な感染拡大が始まっています。第6波の到来です。デルタ株からオミクロン株への置き換わりによる、急速な感染拡大です。1月9日から沖縄、山口、広島の3県を対象に、まん延防止等重点措置が適用されました。さらに、19日には1都12県に、その勢いはほぼ日本列島を飲む勢いです。

今回のオミクロン株は比較的症状が軽くて、無症状の人も多いようです。それで無症状や軽症で動きまわる人が増え、ウイルスの感染伝播速度が速くなりました。さらに、物流やライフラインを担う方々、警察官や消防隊員などに広まれば、医療にとどまらず、生活や安全保障にまで大きな影響が現れます、まさに感染爆発です。

新型コロナウイルスの変異株はイギリス株、インド株など、最初に見つかった国の名前を使って呼ばれていました。しかし、WHOは差別や偏見につながるとして、2021年5月から意味を持たないギリシャ文字で表すことにしました。

見つかった順にアルファ株、ベータ株、ガンマ株といった具合に名付け、これまでミュー株までの12種類の変異株が見つかっていましたが、今回はミューの次のニュー(ν)とクサイ(ξ)を飛ばしてオミクロン(ο)株としました。変異株は次々に



一冊の本物の本に出会うときは、恋に落ちるようなものである。

クリストファー・モーリー

出てきますので、24のギリシャ文字では足りなくなる恐れがあります。WHOはそのときには星座の名前をあてる見通しだそうです。

しかし、オミクロンの次の16字は皆さんがよく知っているπ（パイ）です。ウイルスは変異していくので、当然πの変異株も登場するでしょうが、パンデミック（世界的流行）だけは避けなければなりません。全世界が英知を結集して、収束させねばなりません。ワクチンそして、治療薬が市販化されれば状況は一変すると思います。

温故知新一学園の精神一

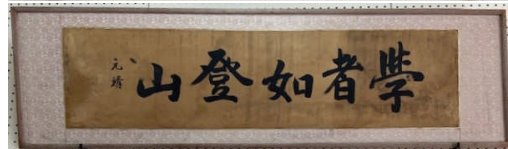
右の扁額は、理事長室と会議室に掲げてあります。

徳者才之主 徳ハ、オノ主ナリ

『菜根譚』（中国の古典）に、「徳者才之主、才者徳之奴（徳ハオノ主ナリ、オハ徳ノ奴ナリ）」とあります。

「人徳は才能の主人で、才能は人徳の使用人である。」と訳したらいいでしょう。

その意味は、「才（能力）は徳があればこそ正しい力を発揮する。」才能を磨くと同時に、人間性を磨くことが大事ということでしょうか。



學者如登山「學ブハ山ヲ登ルガゴトシ」と読みます。

学問を登山に例えています。

小学生の時には小学生用の山が、中学生には、中学生の、高校生には高校生の山があります。高い山に登るほど、山頂からの視野は広がっていきます。登れば上るほど視野が、学問も同じように学べば学ぶほど、見識（視野）が広がってきます。

一歩一歩高いところに登るにしたがって次第に視界が開け、広々と見えるようになると同様に、学べば学ぶほど、未知の事柄もわかって物事が広く深く見えてくるようになる、と解釈できるそうです。

徳を身に付けるためには、人として善い行いをする習慣を身に付けること。

皆さんが持っている才（能）を発揮するためには、その才（能）を磨くための努力が必要です。

「継続は力なり」という諺があります。徳も才も学も、小さな努力を積み重ねることで少しずつ身に付いていきます。皆さんも、一歩ずつ焦ることなく、目標に向かって歩みを止めないことです。大事なことは、続けることです。

このカタカナ語一理解できますか？一

右の記事は、ある新聞の経営セミナーの案内文です。

カタカナの文字や略語が多く、私にはよく理解できませのでした。そこで、私なりに辞書とにらめっこしながら、日本語化しました。皆さんは、どちらが理解しやすいですか。

日本語の漢字や漢語は、外来語です。日本へ本格的に漢語が流入したのは、6世紀、仏教の伝来とともにでした。

日本人は、当時の威信ある国際語である中国語の文字や語彙を広く受容し、そこから仮名文字を創りました。

日本語における本格的な外来語受容の第二弾は、明治初期のことです。そして、グローバル化した現代が、第三弾かもしれません。

私たちは、歴史的に多くの外来語を受容してきました。しかし、かつて受容された外来語がすべて現在に生き残っているわけではありません。むしろ、いずれの言語でも、多くの外来語は定着せずに、消えていきました。外来語が定着するか否かを決めたのは、それぞれの言語を用いて生活してきた私たちでした。外来語も社会全体が有用と判断すれば生き残ったし、無用と判断すれば消えていきました。この生き残りに関わる過程は、現在のおびたしいカタカナ語にも当てはまります。

外来語の氾濫の問題は、今に始まったことでもありません。しかし、もう少し外来語由来のカタカタ語を少なくして、できるだけ日本語化した方がいいと思っているのは私だけでしょうか。

パンデミックによる社会変化だけでなく、高まる環境問題や地政学上のリスク、増加するサイバー攻撃など、企業経営者には今までに経験が無いほど新たな視点での国際経営戦略が求められています。

マイナス面のリスク対応に限らず、積極的な M&A や新たな テクノロジー の導入、サプライチェーン 強化といった投資局面にも不確定要素を ハッジ する戦略は欠かせません。

本セミナーでは、コロナ禍 を超えて成長を目指す企業に求められる グローバル戦略 と リスクマネジメント を総合的に考えるとともに、攻めと守りの両面からの ソリューション を考察する場と致します。

世界的流行 による社会変化だけでなく、高まる環境問題や地政学上の 危険、増加する 通信網 を通じて破壊活動やデータの 窃取、改ざん など、企業経営者には今までに経験が無いほど新たな視点での国際経営戦略が求められています。

消極的な対応 に限らず、積極的な 企業の合併・買収 や新たな 科学技術 の導入、部品供給網 強化といった投資局面にも不確定要素を 回避 する戦略は欠かせません。

本研究会では、コロナ禍 を超えて成長を目指す企業に求められる 世界的戦略 と 危機管理 を総合的に考えるとともに、攻めと守りの両面からの 解決 を考察する場と致します

2月の月間目標

整理整頓

令和3年度
チャレンジ目標

- 1 明るい挨拶
- 2 5分前行動
- 3 交通ルールを守る
- 4 1%を誰かのために

私にとって、一番苦手な目標です。

「整理」は、「いるものといらないものを分け、いらないものを捨てること」。

「整頓」とは、「必要なものをいつでも誰でも取り出せるよう、規則正しく配置すること」。

1月行って、2月は逃げて、3月は去る、と言われるように、3学期は本当に短い学期です。

いつも身の周りの整理整頓に心掛け、すっきりさせて、新年度を迎えましょう。

整理整頓を成功させるコツは、片付けを習慣化することです。授業が終われば次の準備をして休憩する、これを毎日実行することです。小さな努力を積み重ねることで、きっと大きな成果を生むことができます。

今日できることは明日に延ばすな、という諺があります。今からやりましょう。

二十四節気

『立春（りっしゅん）』2月4日

旧暦ではこの日が1年の始めとされていたため、決まり事や季節の節目はこの日が起点になっています。八十八夜、二百十日、二百二十日も立春から数えます。冬至と春分の真ん中で、まだまだ寒いですが、暦の上では旧冬と新春の境目にあたり、この日から春になります。梅の花が咲き始め、徐々に暖かくなり、春の始まりとなります。

立春の早朝、禅寺では、入口に「立春大吉」と書いた紙札を貼る習慣があります。厄除けとして、家の鬼門にこの紙札を貼る家庭もあります。「寒中見舞い」は立春の前日まで。以降は「余寒見舞い」（2月下旬頃まで）になります。

『雨水（うすい）』2月19日

空から降るものが雪から雨に変わり、氷が溶けて水になる、という意味。草木が芽生える頃で、昔から、農耕の準備を始める目安とされてきました。春一番が吹くのもこの頃です。しかし、本格的な春の訪れにはまだ遠く、大雪が降ったりもします。三寒四温を繰り返しながら、春に向かっていきます。地方によっても違うようですが、この日に雛人形を飾ると良縁に恵まれるといわれています。

日本の行事・暦